

広報 まにわ3

第11号 2006

人と環境にやさしい杜市づくり

主な記事

- バイオマスタウンを目指して P 2～
- 市政トピックス P 12～
- 介護保険制度が変わります② P 20～
- さようなら中和中学校 P 22～
- ぐるっと真庭 まちの話題 P 26～

バイオマスタウン真庭の取り組み
それは
子どもたちのため

全国のバイオマスタウン構想提出自治体数(都道府県別)

農林水産省第9回公表(平成18年1月31日)分まで

平成22年で500市町村がバイオマスタウンとなることを、国は目標にしている。

日本全国でバイオマスタウンとして構想書を提出している自治体は、これまで33市町村。それぞれの地域で生物資源を活用した地域振興の取り組みが始まっている。中四国地方では、現在までのところバイオマスタウン構想書を提出した自治体は0(ゼロ)。

真庭市は、中四国初めてのバイオマスタウン認定を目指している。

まにわし
真庭市

「バイオマスタウン真庭」を目指し、
真庭市バイオマス活用計画策定中



真庭市は日本の バイオマスタウン を目指しています

「バイオマスの利活用計画」。「バイオマスタウン構想」。

真庭市では「賑わいと安らぎのある杜市」づくりを目指して数々の振興策を計画していますが、この2つもこれからたびたび登場することになるキーワードです。2月11日、市ではこの計画や構想に理解を深めていただくための「バイオマスタウンまにわ」シンポジウムと、このバイオマスに関連した産業観光ツアーを開催しました。今月は、このシンポジウムを通して市がなぜ、このバイオマスに取り組んでいくのか、その一端をお知らせします。

2/11
開催

シンポジウム
バイオマスタウン
まにわから

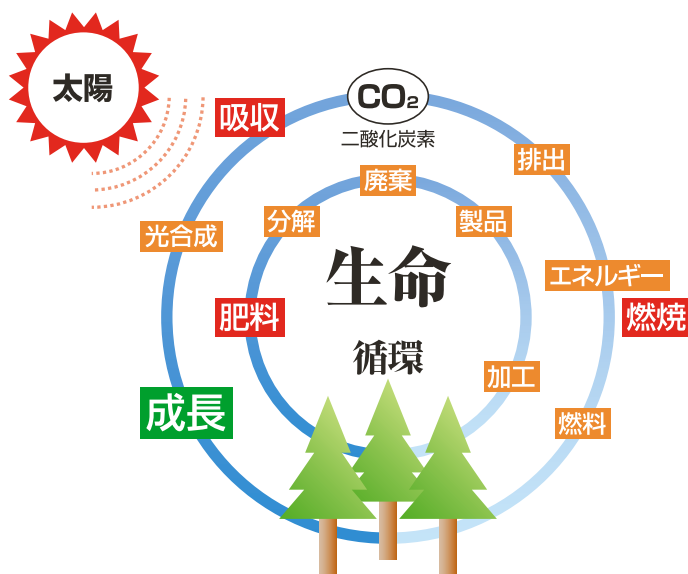


■カーボン・ニュートラル (炭素の中立)

バイオマスの炭素は、大気中の二酸化炭素を植物が光合成で固定したものであるため、燃焼で二酸化炭素が発生しても、実質的に大気中に炭素を増加させない。



バイオマスを有効利用すれば持続的に循環する



循環する生命のエネルギー

■生物資源「バイオマス」

持続的に再生可能な資源

石油や石炭に代表される化石資源は、文明の発達の過程で、その利便性から「社会の血液」と呼ばれるほど生活に浸透し便利さと豊かさをもたらしました。しかし、その一方では限られた資源であり、自然界に還ることのない有害物質や廃棄物排出など環境問題を深刻化させています。

片や、化石資源が利用される以前の古来から利用されてきたバイオマスは、植物や動物など循環する生命の営みそのものです。資源として考えれば、持続的に再生が可能であり、クリーンなエネルギーです。

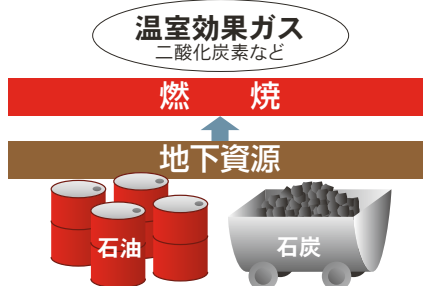
二酸化炭素の増加抑制

例えば、地球温暖化の原因の一つと言われている二酸化炭素の排出では、植物系のバイオマスも燃焼すれば二酸化炭素を放出します。しかし、この二酸化炭素はもともと植物が光合成によって吸収し内部に固定させたものです。そして植物は成長のために再び大気

地球温暖化は何が問題

地球温暖化の最大の原因は、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの大気圏内での濃度の上昇によるものです。温室効果ガスは、太陽照射により暖められた地表から出る赤外線を吸収し、熱エネルギーとして大気圏内に蓄積する働きをもっています。

この結果として大気圏内の温度が上昇し、両極の氷が溶けて起きる海面上昇や、洪水や寒波などの異常気象、生態系破壊など、地球規模で人間社会にも大きな被害をもたらすと考えられています。



中から二酸化炭素を吸収します。

化石資源に由来するエネルギーや製品を、バイオマスで代替えることができれば二酸化炭素の排出削減にも、大きく貢献することが考えられます。

■国と国との約束は 日本の振興策へ

バイオマス・ニッポン

1997年12月、京都で開催された国際会議で、日本など先進国から排出される温室効果ガスの削減数値目標や、その達成方法などを定めた「京都議定書」が合意されました。この中で日本は2008年から4年間に、二酸化炭素などの温室効果ガスを1990年の日本の排出量と比べ6%削減する

と約束しました。

しかし、日本のような化石資源の大量消費社会で、この目標値を達成するのは大変なことです。そのため、日本は国を挙げてバイオマス利用を推進するため、「バイオマス・ニッポン」を定めました。

また、地球温暖化は国際的な課題として、先進各国は化石資源に代わるクリーンなエネルギー技術開発にしのぎを削っています。この状況の下で、環境技術が産業となれば、国際競争力を持つ大きな経済効果を生み出すことも考えられます。自然豊かな農山漁村ほど大量に存在するバイオマスは生物資源。バイオマスタウンを目指す自治体の取り組みに対して、国は1府6省庁の連携で、支援策を用意しています。

バイオマスは身近な資源	
●廃棄物系バイオマス	
●家畜排せつ物、食品資源(加工残さ・生ごみ)	
●下水汚泥・し尿など	
●未利用バイオマス	
●林産資源(林地残材など)	
●農産資源(稲わら・もみがら)	
●資源作物	
●糖質資源(サトウキビ、テンサイ)	
●でんぷん資源(米、いも類、とうもろこし)	
●油脂資源(なたね、大豆、落花生など)	

技術進歩により広がる用途

- 熱・エネルギー
メタン発酵、ガス化
- 液体燃料
バイオエタノール燃料
バイオディーゼル燃料
- 素材
バイオマスプラスチック



バイオマス資源は身近な存在

■人・真庭の営みに 密接なバイオマス

技術革新の産物

バイオマスは、人の営みに身近な資源です。従来、生物資源であるバイオマスの利用は、肥料や飼料、燃料として、そのままの形状を利用する形にとどまっていた。また、多くがゴミとして処分される対象でした。しかし、進歩する技術は、徐々に化石資源のような多用途の利用方法を開発するようになってきました。

緑豊かな真庭

日本国土の約6割は森林。資源に恵まれない日本でも、木質系バイオマス利用の面から見れば豊かな資源を持ち合わせています。そして、真庭市はこの割合を超える約8割が山林地域です。真庭では、この地形特性を活かす地域

振興策として農業をはじめ、山林には明治時代から杉やヒノキの植林が盛んに行われてきました。そして、これを背景に地場産業の一つとして木材産業が発展してきました。しかし近年の木材産業は、生産コストの上昇や国産材の製品市場化の遅れなどから厳しい状況が続いています。

さらに、これに追い打ちをかけるように平成14年にはダイオキシン類対策特別措置法で、自然産物である木の副産物、木材樹皮やおがくずまでが産業廃棄物となりました。法律に基づく処分方法と多量のこれら副産物処分には多額の経費が必要です。木材産業は、厳しい環境に置かれています。

■木質系先行の地

意欲は連携を産み

地域発・新産業創出の取り組みへ平成5年、市内でさまざまな事業に携わる有志が、真庭の将来を見据えた研究会「21世紀の真庭塾(現NPO法人)」を発足させました。地域資源を活かしたまちづく

市町村

- 総合的なバイオマス利活用に向けた検討
- 地域の関係者(NPO、大学等)の参加

バイオマスタウン構想書

利活用の基本的構想や目標

関係府省の連携した施設

情報提供
バイオマス情報
ヘッドクォーター

バイオマスニッポン 総合戦略推進会議

内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

- 技術開発や地域の取組支援、施設整備などの取組

連携と情報の共有



バイオマスニッポンの実現



NPO法人21世紀の真庭塾副塾長
(ゼロ・エミッション部会長)

大月隆行さん

(株)ランデス
代表取締役社長



■人の手が入らなくなった植林地は荒廃し、木本来の材木としての価値も失わせていく。一方、バイオマスの視点から見れば、間伐などで林に放置された木は、貴重な資源といえる。

バイオマスで地域の誇りを発信

平 成5年、「21世紀の真庭塾」は若手の企業後継者24名でスタートいたしました。

当時は、ちょうど中国横断自動車道着工の年で、「高速道路ができて地域は良くなる」との意見もありました。しかし、「高速道路ができて地域が良くなるか、ならないか」の議論ではなく、地域に住む人々が、その恵まれたインフラを活かして、「良くするか、しないか」が重要で、地域の自主的・主体的取り組みこそが大切だと言う、ある意味、危機感にも似た思いを塾員が共有していました。また、産業人としてこの真庭を活力に溢れ、笑顔が溢れ、誇りある故郷にしたいという強い想いも塾員共通のものでした。

地域の主体性と可能性について、

著名な方々にお越しいただき勉強を重ねる中、「まちづくり」と「ゼロ・エミッション」の2つのテーマで部会を設け、平成10年には「環境まちづくりシンポジウム」環境と産業の共感ステーションを開催いたしました。その頃から、地域の貴重な財産である「森林・木」を活かして、環境のまちづくりを考え、新たな循環型産業を興したいとの構想を強く持ちました。その後、平成14年にはバイオマス・ニッポンなどの施策で、国を始めとする各行政からバックアップがいただけるようになったことは、真に有り難いことです。

また、樹木環境ネットワーク協会専務理事の洪澤寿一氏にご参加いただき、真庭を挙げての具体的な取り組みが始まったことも、大変な幸運であ

ると思います。将来の真庭を考えますと、その実現への動きは緒に就いたばかりですが、近い将来、真庭にバイオマスをキー(鍵)とした活力ある企業が多数生まれ、世界に誇れるオンリーワンの地域ができればと期待しております。

依存心からは「誇り」を得ることはできません。自ら汗を流し、知恵を出し合っ行動する市民の意志によってこそ素晴らしい真庭を創造することができると確信いたします。

20世紀は、都市型の価値観を「是」とした時代でしたが、21世紀は地域にあるものの価値を認め、磨き、その個性を胸を張って世界に発信する時代です。真庭はそんな地域になり得る魅力と可能性を秘めた郷土であると思います。

りを研究する21世紀の真庭塾の取り組みは、やがて木材産業、行政、専門家といった各関係者を巻き込み木質系バイオマスの有効活用を研究し、新産業を興し地域振興を目指す「資源循環型事業連携協議会」へと発展しました。

宣言から社会システム実証試験へ

研究から市内新産業構想が誕生。さらに、地域発信の産官学が連携した木質系バイオマス利用事業の取り組みを強化し地域をはじめ国内にアピールする必要があると見てきました。そこで協議会は、

平成15年に2日間にわたる「真庭フォーラム」を開催し、地域に向けてバイオマス利用促進をアピールする「バイオマス・マニワ宣言」を行いました。

そして現在、この流れの中から、地域内の製材事業者など18社・団体の出資による2つの新会社が設立されるに至っています。

さらに真庭市では、この流れから、平成18年度には、経済産業省外郭団体、独立行政法人新エネルギー・産業総合技術開発機構(NEDO)のバイオマスエネルギー地域システム化実験事業が始まろうとしています。

バイオマス・マニワ宣言(概略)

- 一、住民は、ぬくもりのある森の文化を見直し、日常生活に自然素材を取り入れたライフスタイルを目指します。
- 一、事業関係者は、地域バイオマス資源を生かした新たな産業づくりに取り組みます。
- 一、木質資源循環のために、公共事業に積極的に導入するよう、行政に働きかけます。

聞く

■最前線

木質系バイオマスの新産業化が民間事業レベルで進む真庭は、先進地のひとつとして注目を浴びている。
(平成17年6月30日 山陽新聞)





シンポジウム 基調講演

シンポジウムでは、市バイオマス利活用計画策定委員会委員長、
洪澤氏から基調講演が行われました。

(※紙面都合上、講演の後半部分をお知らせします)

真庭のバイオマスを考えてみよう —多くの可能性のある地域—

真庭市バイオマス利活用計画策定委員会委員長
樹木・環境ネットワーク協会専務理事

洪澤寿一氏



プロフィール

東京農科大学大学院農学研究所博士課程修了、農学博士。海外援助協力に赴いた後、長崎ハウステンボスの企画、経営にたずさわる

平成12年から、真庭の木質系バイオマスの利活用策に関する研究と事業の推進に参画。

バイオマスとは新しいことではない

バイオマスは再生可能な生物資源のことを言います。新しいことはありません。かつて、昔の暮らしに戻ろうという話でもありません。約40年前、機械を使わずに人の手で木を伐つていた時代は、大変でした。チェーンソーではなく、鋸を使うと木は1日数本しか伐れません。でも、樵は、鋸を入れたと

きの歯の抵抗感で、年輪の幅やその成長の違いを知り、雨が多かった年や、何年か前に台風がきたということをつかっていた。この間まで日本人は自然と対話しながら、自然の中で暮らし続けてきたことです。この40年間、石油資源を大量に消費する時代が続きました。しかし、もはや石油資源を

まったく使わない社会に戻すこともできません。

そこでテクノロジーの出番となります。木質資源をペレットに加工し、家畜の排泄物を再資源化すること、昔の生活では大変な手間と時間がかかりました。科学技術を利用することで、この手間と時間を省いて、利用しやすいものを創り出していこうとしています。

1987年、そして太陽エネルギーと糸車

地球環境の話に戻りますが、1987年、人類は大きなハードルを越えました。それまで地球の自然が1年間につくる生産量(純一次生産量と言います)は、人間が必要とする量と、ほぼ1対1の割合だったのですが、そのバランスが崩れたのです。今は消費量が約1.25倍になっています。つまり人類が生きていくためには地球が1.25個必要であるというのが、現在の状況です。この状況を子どもたちにそのまま引き継いでもいいのかということが問われています。

現在、地球上に残る石油は、富士山をひしやくにして0.8杯分しかないといわれています。今のまま使い続ければ、数十年で石油はなくなりませんが、一つだけ救われることがあります。それは太陽の光です。

太陽が1年間に地球にもたらすエネルギーは、石油に換算すると富士山400杯分になります。しかし、太陽エネルギーは人間が直接食べることはできません。太陽電池を作り、そのエネルギーを利用することはできても、直接、人間を「生かす」ことはできないので

す。

それが唯一可能なのは、光合成を行う植物です。地球上で太陽エネルギーを直接利用できるのは、植物と植物性プランクトンしかないのです。これを生態学では「生産者」と呼んでいます。動物は「消費者」です。植物を食べ、動物を食べることで、わたしたち人間は命を長らえているのです。これは縄文人であっても現代人もまったく同じです。そして、わたしたち「消費者」が死ぬと、バクテリアや昆虫などが食べ、土に還ります。彼らを「分解者」と呼んでいます。「生産者」と「消費者」と「分解者」が延々と回り続けている



■小学生の発表
シンポジウムでは、先
だって行われたバイオ
マスタウンミーティン
グに参加した、美甘・
樫邑・富原小児童が、
体験を発表



■パネルディスカッション
シンポジウムでは生活
者の視点からみたバイ
オマスタウンの可能性
を討議するパネルディ
スカッションも行われ
た

バイオマスタウン構想は、今日、会場で発表したような次の世代の子どもたちに、「さらに次の世代につないでいくことができる安心感」を、どうやって持たせてあげられるかというのが一番の根本です。

自然の糸車、自然の循環を止めない。自然の元金に手をつけずに自然が与えてくれる利息の中で暮らしていく社会をどうつくっていくかということは、決して政治家や学者、ましてや技術者だけで決めていくことではありません。市民一人一人が決めることです。今の価値観とは違う社会をどうやってつくるのか、それを次の世代にどうつないでいくのか、



全員で価値観を次の世代につなげていく

バイオマスタウン構想は、今日、会場で発表したような次の世代の子どもたちに、「さらに次の世代につないでいくことができる安心感」を、どうやって持たせてあげられるかというのが一番の根本です。

何度か繰り返しますが、急に明日からの価値観を変えようという話ではありません。今の生活の中でできることから変えて、子どもたちが大人になるときに「安心して暮らせると思える社会」をつくっていく。そのために真庭のバイオマスをもう一度見直そう、取り組めるところから取り組んでみようということです。自然の中では人は一人では生きていけない、一緒に協働していかないと暮らしていけない。人と人をつなぎ、人と自然をつなぐ暮らしを、子どもたちの世代にどう実現するのか。それをバイオマス活用計画の中で



バイオマスタウン、その目的

バイオマスには大きな特徴があります。それは「かさばる」ことです。木質でも糞尿でも、石油と同じエネルギー量を得ようとすると、石油では一斗缶ひと缶でできることも、バイオマスでは何倍もの量がかかります。こう話すとデメリットに聞こえますが、実はこ

れはメリットでもあります。なぜかといえば「輸送」を考えずに、地域内で利用しようという発想になるからです。バイオマスを遠くに運ぼうとすればするほど、輸送には膨大な石油を使うという矛盾になりますし、コストもかかります。ですから、バイオマスは真庭な

のが地球の生態系です。

この生態系の循環を糸車のように回し続けてきたのは、本来は太陽エネルギーです。しかし、糸車に石油エネルギーを加えて回すようになりました。回し続けた結果、地球温暖化となり、このまま地球温暖化が進むと、

糸車そのものまで壊れてしまうという時代になりました。

しかし、今なら間に合います。いきなり石油依存社会から変わることはできませんが、少しずつ抜け出していくことはできるはずです。石油消費をゼロにするのではなく、今



▲シンポジウム会場の様子

考えていきたいと思っています。

ら真庭という地域で使う場合に、初めてメリットが生まれるのです。

バイオマスの取り組みは、「自然の元金に手をつけないで、その成長量の中で暮らせる社会」をつくりあげることです。そして「目に見える範囲の、身近な自然によって生かされていると思える地域を創り出すこと」。これがバイオマスタウンの一番の目的です。

使っている石油の消費量を少なくし、ほかのエネルギーも使えるようにする。糸車がもう一度、手を離しても落ち着いて回り続ける状況を、人間の知恵でつくっていく、そしてそういう地域を創り出そうというのが、真庭地域が目指す「バイオマスタウン」です。

産業観光モデルツアーでみたバイオマス利用状況

現在、真庭市には木質系バイオマス先進地として、関連企業に先駆的取り組みを視察するため多くの見学者が訪れています。「バイオマスタウン・まにわシンポジウム」開催当日には、こうした産業を観光資源として活かす可能性を探るため、モデルツアーが行われました。ツアー訪問地と合わせ、真庭市内のバイオマス利用事例の一部を紹介します。

ツアー訪問④



■ペレタイザーとペレット

製材後のかなな屑を特殊処理で固めることで木質ペレットを生産するプラント＝ペレタイザーを見学。見学先の工場では、日産で10～15ト、年間では約5千トを製造している。

ツアー訪問③

■ペレットボイラ

地域福祉センター「百楽苑」(草加部)の給湯に利用されている国内初のペレット焚きボイラ(平成16年2月稼動開始)を見学。平成18年度から始まるNEDOのバイオマス地域システム化実験では、市内農家に温水・温風ボイラが導入され社会実験が行われる予定。



ツアー訪問②



■木片コンクリート製品と木粉インターロッキングブロック

木材とコンクリートの融合製品工場を見学。写真は木片を混ぜたガーデニング用製品と木粉を混ぜた舗装用ブロック。強酸性土壌斜面の植生を可能にした木片コンクリート板は、高速道路の斜面緑化で利用済み。

ツアー訪問①

■エタノールプラント

真庭産業団地内で木材チップからエタノール(工業用アルコール)を製造中のプラントを見学。ここで製造されたエタノールは自動車のE3燃料(ガソリンに3%混合)として岡山県・真庭市が公用車に導入し、社会実験中。



そのほかの市内バイオマス利用事例



■堆肥化施設

市内では畜産系廃棄物の堆肥化施設が3カ所稼動している。市内で年間に排出される家畜排泄物の量は約128,918ト(市バイオマス活用計画策定委資料から)。市内では、木質系廃棄物資源に次ぐ量となっている。(写真は川上地区の施設)

そのほかの市内バイオマス利用事例

■EDF燃料とその利用車

湯原町(ゆばらまち)旅館協同組合と市内事業者が協働し、使用後の食用油を精製。車の燃料として使用を開始している。現時点(平成18年2月)で市内の旅館・飲食店80軒がこの事業に参加しており、月に1,050ℓの廃油を収集している。



そのほかの市内バイオマス利用事例



■ペット用品(ねこ砂)

市内月田地区、新庄村内に工場を有する事業者が、ひのきの消臭効果に着目し、おが粉からペット用品を技術開発、製品化。従来は、製材所などの廃棄物として焼却処分対象だったおが粉も、技術と発想の転換でバイオマス製品に生まれ変わった。

ツアー訪問⑤

■バイオマス発電施設

国内で初めて木質バイオマス発電を開始し、自社施設利用と電力会社へ売電を始めた工場施設を見学。製材工場から排出するかななくずで1時間に20トの水を蒸発させタービンを回し、1,950kwの電力を得ている(写真はかななくず貯蔵施設)。





みなさんと歩みたい バイオマスタウン

石油・石炭の化石資源の大量消費は、温暖化という地球規模の環境変動をもたらすまでになりました。シンポジウムの基調講演前半で洪澤氏は、「人類が生存できる地球平均気温の上昇限界は、地球物理学者や気象学者の見解では2度から3度。生物学者（農学分野）は植物の生殖メカニズムがおかしくなる1度。海洋生物学者は二酸化炭素を吸着している珊瑚礁が死滅するため0.1度から0.2度と言っている。つまり、それほどまでに二酸化炭素などの温室効果ガス増加は、緊迫したものであることが専門家の間では共通認識になっている」と話しています。

平成18年度、市内では民間レベルで先行してきた木質系バイオマスの取り組みに基づき、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が、バイオマスの地産地消と地域循環型社会実現のため、数々の課題解決に向けた社会実験を開始します。

石油製品が現れるまで、生活用品に燃料にと当たり前のよう使用されていたバイオマス。地球温暖化抑止という国際的課題と技術の進歩で、廃棄物であったものまでに貴重な資源という価値が生ま

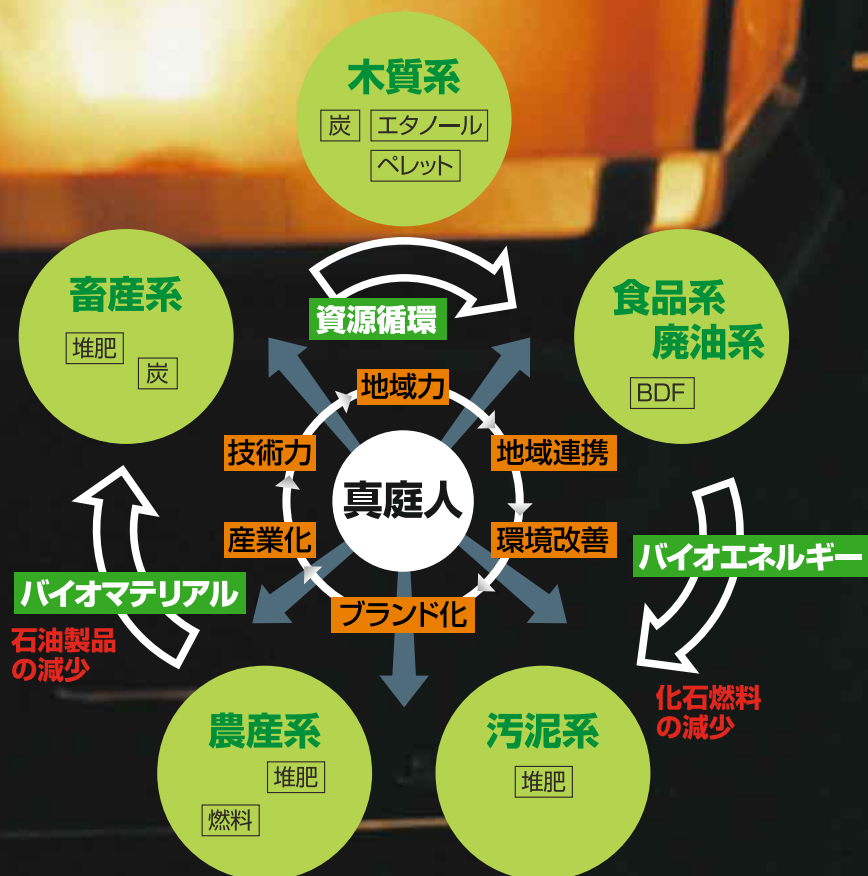
れています。

バイオマスタウン。市民皆さんの資源循環型社会実現への理解と意欲が得られて、初めて大きな力が生まれてきます。

シンポジウム・バイオマスタウンまにわ 参加者の声

- 地域のシルバー世代の知識や経験も活かせるような取り組みはできないか。大企業のOBも地域にいるはず。
- かなりの方が関心を持っておられ心強く思いました。今後は女性の参加が増える工夫とリサイクルなどで協力推進を
- わたしも一市民ですが、「環境都市まにわ」を意識しながら生活したいと思います。真庭ならばバイオマスタウン構想も無限大の可能性があると思います。
- バイオマスを利用するにあたって、消費者が安全・安心・安価を感じ取れることが一番の課題だと思う。特に循環型のバイオマス活用は、コスト高になると住民は参加しにくくなります。あらゆる観点から検討していただきたい。
- 真庭市は木材のまちです。看板はすべて木材で作り処理しやすいものに変えていったほうがよいのではないだろうか。
- きれいな環境の中で自然とともに生活できる、すばらしい地域として真庭が全国で有名になればと思う。若い世代が真庭は多くの可能性を持ったすばらしい地域だということを認識できるようにし、真庭にとどまり、地域の活性化を図ってほしいと思う。

地域の活力を生み出すバイオマスの展開





春です 転入・転出の季節です

市民課
TEL 0867(42) 1112

3月から4月にかけては、1年を通じて最も住所変更の多い時期です。住所変更をするときの手続きについてお知らせします。

市外に引っ越すときは

引っ越すまでに転出届を提出してください。身分証明書、印鑑、印鑑登録証（登録者のみ）が必要です。水道、市公共下水道の利用者は中止届、市町村整備推進事業で設置した浄化槽は廃止届などが必要です。税金の未納がある場合は完納手続きを、老人保健や福祉医療受給者などは医療受給者証を返還してください。児童手当を受けている方は、児童手当消滅届と児童手当所得証明書の交付を受けてください。

市内へ引っ越してきたら

14日以内に転入届を提出してください。身分証明書、

印鑑、前住所地で発行された転出証明書が必要です。

介護保険要介護認定者は受給資格証明書、児童手当を受けている方は児童手当所得証明書が必要です。水道、市公共下水道、市町村整備推進事業で設置した浄化槽を利用する場合には、開始届などを提出してください。国民年金加入者は年金手帳（受給者は年金証書）を持参、国民健康保険に加入される方は窓口で申し出てください。

市内で住所を変更したら

14日以内に転居届を提出してください。身分証明書、印鑑が必要です。国民年金加入者は年金手帳、国民健康保険加入者は保険証、老人保健や福祉医療受給者などは医療受給者証を提出してください。

※各届け出の提出先など、詳しくは市役所窓口で問い合わせください。

各手当の該当の方は手続きを

子育て支援課 TEL0867-52-1115
福祉課 TEL0867-52-1112

各手当の対象となる方は支給を受けられます。申請の手続きをしてください。

児童扶養手当

離婚などにより、父と生計を同じくしない児童のほか、父が障害者である場合の児童について、その児童を監護する母または母に代わって児童を扶養している方に対して支給されます。ただし、養育者が年金を受けている場合は受けられません。

☑ 子育て支援課または各支局福祉係

特別児童扶養手当

20歳未満の精神または、身体に障害がある児童を、家庭において監護している父母または養育者に対して支給されます。ただし、児童が児童入所施設または社会福祉施設に入所している場合や、児童が障害を事由とする年金を受けて場合は受けられません。

障害児福祉手当

20歳未満の精神または身体に障害があるために、日常生活において、常時介護を必要とする方に対して支給されます。

特別障害者手当

20歳以上の精神または身体に重度な障害があるために、日常生活において在宅で常時特別な介護を必要とする方に対して支給されます。

☑ 福祉課または各支局福祉係

※いずれも、所得制限などの支給条件があります。詳しくはご相談ください。

狂犬病 注予防

犬も家族の一員です。狂犬病予防注射は大切な愛犬を病気から守り、人にも感染する狂犬病を予防するためのものです。生後91日以上の子犬には、年に1回接種が必要です。予防接種の日程をお知らせしますので、お近くの会場へお越しください。動物病院などで接種した場合は、獣医さんが発行した狂犬病予防注射済証を持参して、市役所窓口で注射済票の交付を必ず受けてください。また、愛犬の死亡や飼い主の変更、住所移転した場合もお近くの市役所窓口まで届け出てください。

かわいい愛犬のために



4月

予防注射にかかる費用
登録してある犬 2800円
登録のない犬 5800円

※TEL 0867(42)1113 環境課
※4月22日以降の予定は来月号で掲載します。

13 (木)	落合地区	
	① 9:30～9:45	大庭集会所
	② 10:00～10:30	古見ふれあいの館
	③ 10:45～11:00	中田原公会堂
	④ 11:20～11:45	西原縦貫道ボックス
	⑤ 13:50～14:00	杉山公会堂
	⑥ 14:40～15:20	天津小学校

14 (金)	落合地区	
	① 9:30～10:00	JA上河内支所
	② 10:20～10:50	中河内コミュニティハウス
	③ 11:10～11:40	下河内コミュニティハウス
	④ 13:20～14:20	落合庁舎

17 (月)	久世地区	
	① 9:20～9:50	余野・政保商店駐車場
	② 10:00～10:20	樫東生活改善センター
	③ 10:30～11:00	目木勤労者研修センター
	④ 11:10～11:20	大内原公民館
	⑤ 11:30～11:50	西口公民館
	⑥ 13:30～13:50	五反公民館
	⑦ 14:00～14:20	大宮コミュニティハウス
	⑧ 14:30～14:50	多田公民館

18 (火)	久世地区	
	① 9:30～9:45	鍋谷公民館横
	② 10:00～10:15	樫西コミュニティハウス
	③ 10:30～10:45	三坂消防器庫
	④ 11:00～11:20	北町コミュニティハウス
	⑤ 11:30～11:50	中島公民館
	⑥ 13:00～14:00	久世中央公民館

19 (水)	久世・勝山地区	
	① 9:00～9:20	富尾公民館
	② 9:30～10:00	真庭消防署
	③ 10:10～10:40	上町早川町公民館
	④ 10:50～11:10	黒尾公民館
	⑤ 11:20～11:50	草加部教育集会所
	⑥ 13:00～13:40	真庭市立勝山図書館
	⑦ 13:50～14:10	真庭保健所
	⑧ 14:20～14:50	勝山スポーツセンター

20 (木)	勝山地区	
	① 9:30～9:50	後谷中集会所
	② 10:10～10:30	下岩・戸田茂氏宅前
	③ 10:50～11:20	富原基幹集落センター
	④ 11:40～12:00	家元集会所
	⑤ 12:05～12:15	皇子東バス停前
	⑥ 13:15～14:00	月田公民館
	⑦ 14:30～14:50	荒田・後谷畝コミュニティハウス
	⑧ 15:00～15:10	上江川勝山鉄工所前

21 (金)	勝山地区	
	① 9:30～9:45	見尾公会堂
	② 9:50～10:00	下真賀バス停前
	③ 10:10～10:30	山久世コミュニティハウス
	④ 10:40～11:00	柴原公会堂
	⑤ 11:10～11:30	横部三協商建前
	⑥ 13:00～13:20	勝山公民館神代分館
	⑦ 13:35～13:40	寺河内集会所
	⑧ 14:00～14:30	勝山庁舎

6 (木)	落合地区	
	① 9:30～9:35	高の巣集会所
	② 9:50～10:00	北野集会所
	③ 10:30～10:40	旧上山分校
	④ 11:00～11:10	太田集会所
	⑤ 11:30～11:40	吉集会所
	⑥ 13:30～14:00	津田コミュニティハウス
	⑦ 14:20～14:30	野原コミュニティハウス

7 (金)	落合地区	
	① 9:30～10:00	日野上分校
	② 10:20～10:40	越谷公会堂
	③ 11:00～11:40	旧JA下方事業所
	④ 13:30～13:50	西河内コミュニティハウス
	⑤ 14:20～14:40	桧公会堂

10 (月)	落合地区	
	① 9:30～9:35	千里・坂本宅横
	② 9:55～10:10	旧JA佐引出張所
	③ 10:30～10:55	関コミュニティハウス
	④ 11:20～11:45	JA美川支所
	⑤ 13:30～14:00	古市場、荒神様
	⑥ 14:30～15:00	鹿田公民館

11 (火)	北房地区	
	① 9:45～10:00	井殿老人憩いの家
	② 10:15～10:40	JAびほく水田支店
	③ 10:55～11:10	湯川生活改善センター
	④ 11:25～11:45	八幡町公会堂
	⑤ 13:10～13:40	コスモスドーム
	⑥ 13:55～14:25	JAびほく上水田支店
	⑦ 14:40～14:55	上水田小松六地藏

12 (水)	北房地区	
	① 9:30～9:50	皆部幼稚園横
	② 10:05～10:20	上皆部老人憩いの家
	③ 10:45～11:00	原茂バス停留所
	④ 11:10～11:20	阿口集荷所
	⑤ 11:35～11:40	草谷公会堂
	⑥ 13:15～13:30	樽見公会堂
	⑦ 13:55～14:15	JAびほく中津井支店
	⑧ 14:30～14:55	藤田公会堂

今、なぜ協働のまちづくり ～共に暮らせるパートナーを目指して～

基調講演

社会福祉法人 大阪ボランティア協会理事・事務局長
早瀬 昇氏

パネルディスカッション

コーディネーター

吉備国際大学 社会福祉学部 福祉ボランティア学科教授
米良 重徳氏

パネラー

社会福祉法人 大阪ボランティア協会理事・事務局長
早瀬 昇氏

月田コミュニティ協議会会長

前田 栄氏

NPO法人子育て支援の会「サポートあい」代表
庄司 憲子氏

岡山県美作県民局局長

小林 彬二氏

■手づくり遊びコーナー

吉備国際大学の学生による「手づくり遊び」体験コーナーがあります。親子一緒に楽しんでみませんか。参加は無料です。
※材料などに限りがあります。

■託児サービス

真庭市と協働により子育て支援を行っているNPO法人子育て支援の会「サポートあい」による無料託児サービスがあります。3月10日(金)までに下記へ申し込んでください。(対象は1歳以上)

■問い合わせ・託児申し込み先

自治振興課 TEL0867-44-2683

協働のまちづくり シンポジウム

これからの公共サービスは、行政だけが提供するのではなく、市民と共に考え一緒に汗を流すことが大切です。市民と行政が協働を推進していくための方向性を示す「真庭市協働推進指針(案)」を策定するため、協働について調査・研究する「協働のまちづくり研究会」を立ち上げました。市や研究会の取り組みを市民皆さんに知ってもらい、これからのまちづくりについて一緒に考えていただくための「協働のまちづくりシンポジウム」を開催します。

3月19日[日] 入場無料
13:00～ 勝山文化センター

地域づくり 人材養成講座

3/12 [日] 13:00～
勝山文化センター

公開提案発表

地域活動を担う人材を養成する講座の締めくくりは、受講生による「真庭市の地域づくり提案」を行います。今こそ、地域について、真剣に考えなければいけないとき。興味深い地域づくりの提案を聞いてみませんか。入場無料です。

■問い合わせ先 自治振興課 TEL0867-44-2683



7回の人材養成講座では、受講生がワークショップのスタイルで話し合いを重ねてきました



市政に関する動きの一部を紹介します

農業発展や担い手づくりを目指して

1月24日、「真庭いきいき農業者のつどい」が勝山文化センターで開催。農業経営の発展や担い手の育成を目指し、地域特色を生かした取り組みをしている農業者などの事例発表が行われました。



文化財を火災から守る

文化財防火デーの1月26日、真庭市消防本部が、国指定重要文化財の旧遷喬小学校（鍋屋）、県指定重要文化財の木山神社（木山）、宇南寺大平堂（美甘）を査察。消火設備や火災報知器を点検しました。



公聴会、9支局すべて開催

市長と市民が、直接意見を交えることで、各地域の声を策定中の総合計画反映できるよう開催されてきた「杜の公聴会」。2月2日、最後に川上支局管内で開催されたことで、市内を一巡しました。



ISO取得でサービス向上目指す

湯原温泉病院がISO9001認証を取得し、2月8日に取得報告会が病院内で行われました。市立病院として、これからも医療・介護を通し住民サービスの向上に向けた仕組み作りに取り組んでいきます。



現地講習で農業を学ぶ

新規就農者を応援する「真庭いきいき帰農塾」。2月12日には久世地区の農家を訪問し、現地講習を開催。受講生は花き・野菜・果樹のコースに分かれ、農家から栽培・運営方法などを学びました。



澄みきった空、おいしい水、緑豊かな杜市。人と自然が結ばれ、ゆったりした時間が流れる快適な杜市。そんな杜市には、何ごとも地球規模で考え、身近なことから行動できる人が住んでいるという。

環境 フォーラム

3月26日[日] 久世公民館 14:00～

問い合わせ先 環境課 TEL0867-42-1113

真庭市は「水と緑、人と文化を未来につなぐ賑わいの『杜市』真庭」を目指し、環境施策の基本となる「真庭市環境基本計画」を策定しています。「環境」とは何か、環境方針はどうあるべきか、市民皆さんと一緒に考え、理解を深めるためフォーラムを開催します。環境保全や快適な環境にするための考えを深めてみませんか。

■基調講演

「市民レベルでできる地球環境保全」

(株)環境アセスメントセンター

西日本事業部代表取締役

池田満之氏

■事例発表

環境基本計画策定のため、真庭市環境市民会議が立ち上がり

ました。市民会議メンバーによる生活環境・自然環境の取り組みを発表します。(敬称略)

宮林英子 落合野鳥の会

河野慶治 (株)エコライフ商友

小林芳朗 水田小学校教諭

平敷善栄 YKK AP株式会社

上塩浩子 湯原温泉「八景」

辻野正子 自然環境ガイド受講生

真庭市勝山健康増進施設（勝山温水プール）

愛称募集

申し込みは
3月15日まで

真庭市勝山健康増進施設（勝山温水プール）が、いよいよ4月にオープンします。市民皆さんが、健康で生きがいの持てる生活を営めるようにと建設されるプール。真庭市では、この新しいプールが誰からも親しまれ、広く利用されることを願って「愛称」を募集します。

応募資格

応募資格は問いません。

応募内容

子どもから大人まで、誰もがいつでも気軽に楽しめるもので、親しみやすく覚えやすい愛称。

※愛称は1人1点で、未発表で他の著作権を侵害しないものに限ります。

応募方法

はがきまたはEメールで、①愛称

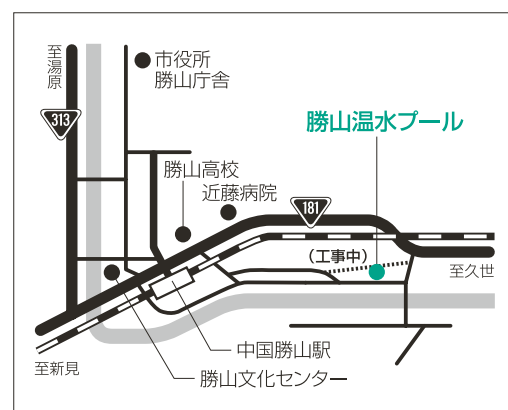
②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤性別

⑥電話番号 ⑦愛称の意味や理由を明記し、送ってください。

応募締切 3月15日（水）（はがきの場合当日消印有効）

表彰

最優秀賞1点（3万円相当の記念品）
優秀賞2点（5千円相当の記念品）



その他

・最優秀賞、優秀賞に選ばれた方は直接通知します。

・採用作品の著作権などの権利は、真庭市に帰属します。

・応募に関する個人情報、選考・発表事項以外には使用しません。

問い合わせ・応募先
生涯学習課

TEL 0867(44)2011

（はがきの場合）

〒717-0013

真庭市勝山319

真庭市役所生涯学習課

勝山プール愛称係

（Eメールの場合）

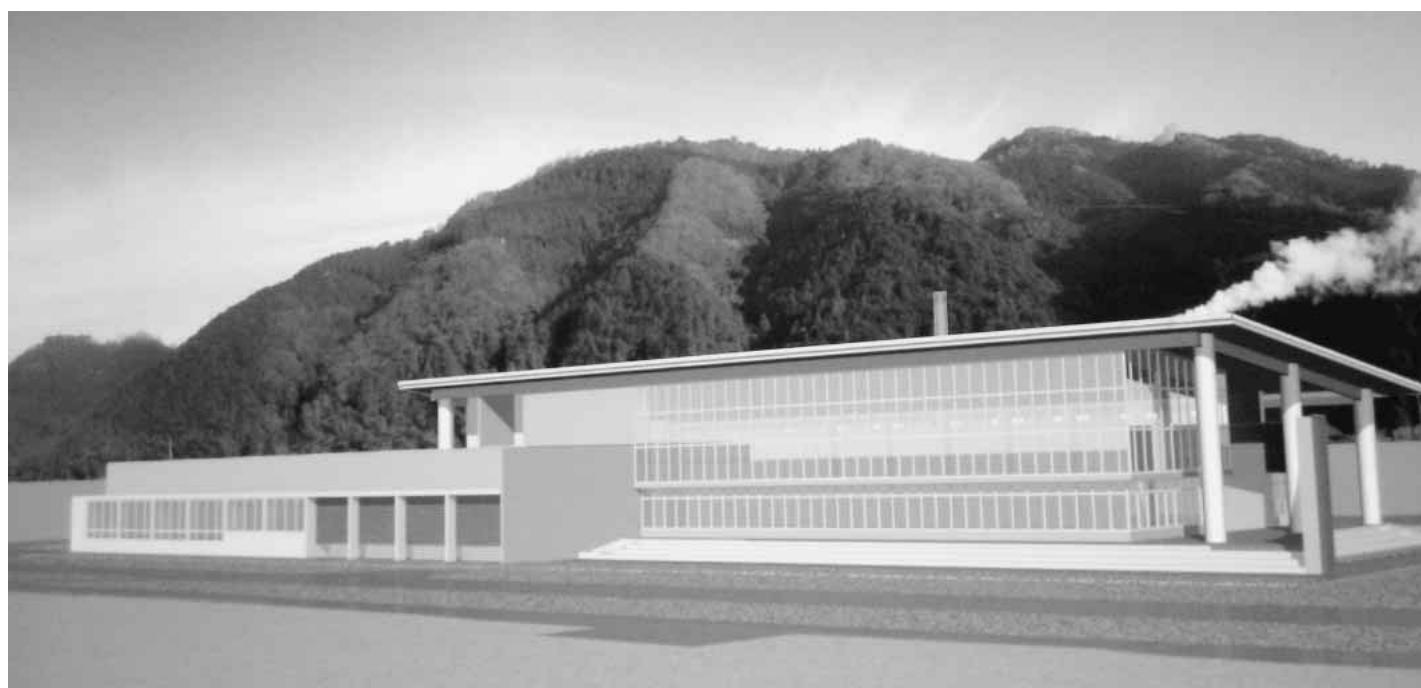
shohgai@city.maniwa.lg.jp

※題名に「勝山温水プール愛称係」と記入してください。



▲プール室内のイメージ

▼完成予想図（南側から望む外観のイメージ）





校舎裏側からの外観。正面側には旧校舎があり、まもなくとり壊されます



機材の充実したコンピュータ室



譜面机で音楽の学習



教室での授業の様子

新校舎紹介



食堂やさまざまな活動で利用できる多目的スペース

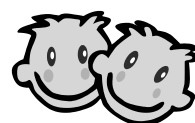


高い天井、広く明るい2階廊下



階段わきの大きな吹き抜け。ゆったりとした空間は開放的な図書コーナーとなっています

真庭市立中和小学校が完成しました。1月30日から新校舎で授業が行われ、子どもたちは生き生きと活動しています。豊かな空間と、内装に木材をふんだんに使った温かみのある校舎をご覧ください。



旧校舎南側に隣接して建てられた新校舎は、鉄筋コンクリート2階建て、延べ面積は1686平方メートル。内装の壁などには県産材のヒノキをふんだんに使用し、明るく温かみが感じられます。階段わきには吹き抜けがあり、図書室を兼ねています。

多目的スペース、家庭科室、コンピュータ室などは、地域の皆さんが活用できるようになっています。

学校ができたよ

中和小学校

蒜山下和

町中にお雛さまが飾られる五日間
勝山のお雛まつり

勝山の町並み保存地区と新町商店街とを合わせた約1kmの区間で、160軒の以上の商家や民家の軒先に雛人形が飾られます。古いものから手作りのものまで、ゆっくり歩いてご覧ください。

期間 3月3日(金)～7日(火)
問い合わせ先 観光課
TEL 0867(44)2647

応援をお願いします

無火災まちづくり駅伝大会

3月5日(日)に開催される無火災まちづくり駅伝大会。久世市街地9.8kmを7人でリレーします。ビューティサロンノムラ前(久世市内河元地区)を午前11時40分にスタートし、ゴールは遷喬小学校グラウンドです。沿道の応援をよろしくお願いします。

真庭市久世消防団

真庭市の人口

総数 53,743(－72)
男 25,650人(－39)
女 28,093人(－33)
世帯数 17,432世帯(－6)
平成18年2月1日現在
()は前月との比較

代表電話番号

真庭市役所本庁舎
(勝山支局)
0867-44-2611
久世庁舎(久世支局)
0867-42-1111
落合庁舎(落合支局)
0867-52-1111
北房支局
0866-52-2111
美甘支局
0867-56-2611
湯原支局
0867-62-2011
中和支局
0867-67-2111
蒜山振興局
八束庁舎(八束支局)
0867-66-2511
川上庁舎(川上支局)
0867-66-3611
真庭市消防本部
0867-42-1190

蒜山を学ぼう

蒜山学講座

蒜山学講座を開きます。今年度の最後は「蒜山の歴史(古代)」です。知っているようで知らなかった蒜山のあれこれ、あなたも学んでみませんか。

日時 3月26日(日) 午前10時～
場所 蒜山郷土博物館
問い合わせ先 教育委員会蒜山分室
TEL 0867(66)2511

釣りに行く

津黒川溪流釣り大会

津黒いきものふれあいの里イバントで溪流釣り大会を開催します。アマゴ・ニジマスを放流しますので、ご家族で釣りを楽しんでください。

日時 3月26日(日) 午前9時～
場所 津黒川砂防公園(蒜山下和)
参加費 500円
※道具のレンタル、餌販売有り

古代米でクッキーづくり
クリエイト菅谷イベント

美甘地区で栽培された古代米を使用することにより、紫色に発色する不思議なクッキーを作ってみませんか。親子、友人でも男性の方の参加も大歓迎。

日時 3月12日(日) 午前10時～
場所 クリエイト菅谷
参加費 一般1000円 小学生以下500円

問い合わせ先 クリエイト菅谷
TEL 0867(56)2044

至道高校は閉校します

閉校記念懇親会開催

56年の歴史を閉じる至道高校。3月4日(土)、午後1時から閉校記念懇親会「思い出を語る会」を開催します。

問い合わせ先 至道高校
TEL 0866(52)2211



中津井のまちを輿入れ一行が練り歩く

明治期の嫁入り(輿入れ道中)を再現 輿入れは両日とも13:00～

雛の文化まつり

3/25(土)、26(日) 両日9:00～ 北房なかつい陣屋周辺

民家に明治・大正時代の内裏雛を展示、あわせてちぎり絵・短歌などの文化作品も展示します。詳しくは、なかつい陣屋(Tel0866-52-5001)まで

自然を大切にする心を

「タンチョウの里」の講演会

岡山県自然保護センター主任研究員の井口萬喜男さんを招き、「タンチョウの里」と題して講演会を開催します。タンチョウを我が子のように慈しみがながら繁殖・育成してきた経験を、お聴きください。

開催日 3月10日(金)

①川上小学校 午前8時30分～
②蒜山中学校 午前11時～
問い合わせ先 山下正弘
TEL 090(5379)6565

名人がやって来る！

安来節チャリティーショー

安来節保存会真庭支部では、真庭市合併記念と同支部山崎英美氏が大師範に昇格したことを

真庭市の消防団

初出・出初式

3/5(日) 久世消防団出初式
9:00～ 遷喬小学校グラウンド
3/19(日) 落合消防団出初式
9:30～ 落合中学校グラウンド
3/26(日) 勝山消防団出初式
9:30～ 勝山運動公園多目的グラウンド
4/1(土) 蒜山地区消防団連合出初式
9:30～ 平成の森グラウンド
4/2(日) ①北房消防団出初式
10:00～ 北房中学校体育館
②美甘消防団出初式
9:30～ 美甘健康増進施設
③湯原消防団出初式
9:30～ 湯原小学校グラウンド
※雨天の場合は会場の変更有り。

祝って、安来節チャリティーショーを開催します。

日時 3月21日(火・祝) 午後12時30分～

場所 勝山文化センター

入場料 500円

問い合わせ先 安来節保存会真庭支部
TEL 0867(44)3120

夢を絶対に実現させる方法

原田隆史講演会

(社)真庭法人会・真庭経済同友会では、公立中学校陸上部を7年連続13回日本一に導いた元体育教師の原田隆史さんを招いて講演会を開催します。入場無料。
日時 4月1日(土) 午後2時～
場所 真庭リバーサイドホテル
問い合わせ先 (社)真庭法人会
TEL 0867(42)4653

17世紀の作品を展示

源氏物語扇形絵展

「ひしお」で、17世紀の源氏物語扇形絵30点(ロンドン在住の個人所蔵)を展示します。日本に里帰りのした扇形絵の、雅な世界をご鑑賞ください。

日時 3月3日(金)～28日(火)

午前10時～午後5時

場所 勝山文化往来館ひしお
入場料 300円

※毎週水曜日は休館日です。

問い合わせ先 ひしお事務局
TEL 0867(44)5880

マジックショーにどうぞ

マジック・ワンダーランド

マギー司郎、マギー審司、ユージョン☆ファクトリーのマジックをご覧ください。

日時 3月18日(土) 午後2時30分～

場所 勝山文化センター

入場料 一般3000円、高校生以下1500円

問い合わせ先 生涯学習課
TEL 0867(44)2011

おめでとうございます

8020(ハチマルイマル)達成

80歳になっても自分の歯を20本以上保つ8020運動。市内達成者をご紹介します。これからも健康で長生きしてください。

池田馨さん(阿口)、大江壽夫さん(下皆部)、長田静子さん(阿口)、豊田正発さん(宮地)、峠秀五郎さん(上水田)、佐藤靖子さん(旦土)、小椋みな子さん(蒜山西茅部)、松田道延さん(勝山)

真庭市文化協会設立記念講演会

カリスマ添乗員 平田進也さん

日本旅行 販売部マネージャー

「旅で心のリフレッシュ」

3月11日(土)

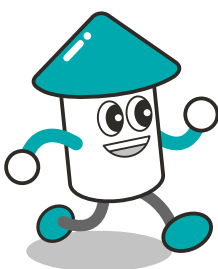
午後1時30分～勝山文化センター

問い合わせ先 生涯学習課
TEL 0867(44)2011

無料入場



いい汗流そう!



白梅クロスカントリー駅伝

5人以上の1チームで5区間11kmのたすきリレーに挑戦してみませんか。部門は小学生、中学生男女、成人男女。個人で駅伝1区間(2.5km)を走る「しめ山コースマラソン」も出場者募集。

ファミリーマラソン
1.2kmを親子仲良く

らくらくウォーキング
4.7kmをゆっくりと歩きましょう

■問い合わせ・申し込み先 落合公民館 TEL0867-52-3315

3月18日(土)

開会9:00

落合総合公園
ハイランド落合駐車場

申し込みは
3月6日(月)まで

休日急患担当医

5日

- 近藤病院・勝山 0867-44-2671
- 松坂医院(内)・久世 0867-42-3300
- さとう医院(外)・北房 0866-52-9898

12日

- 落合病院・落合 0867-52-1133
- 遠藤クリニック(外)・川上 0867-66-3002

19日

- 湯原温泉病院・湯原 0867-62-2221
- 杉山医院(内)・久世 0867-42-5012
- 吉弘クリニック(内)・北房 0866-52-2704

21日

- 中山病院・久世 0867-42-0371
- 人見医院(内)・勝山 0867-44-2133
- さくもとクリニック(外)・北房 0866-52-4833

26日

- 勝山病院・勝山 0867-44-3161
- 岸本医院(外)・久世 0867-42-0495
- 牧原医院(外)・北房 0866-52-2469

— 4月 —

2日

- 近藤病院・勝山 0867-44-2671
- まつうら医院(内)・久世 0867-42-5686
- さくもとクリニック(外)・北房 0866-52-4833

3月の記念日・節気

- 3日 桃の節句、耳の日
- 6日 啓蟄
- 21日 春分、春分の日

引替特例期間は3月30日まで 真庭市の印鑑登録証引替

旧町村発行の印鑑登録証は、平成18年3月30日(木)で自動的に廃止になります。真庭市の印鑑登録への継続を希望される方は、早めに引き替え手続きをお済ませください。

問い合わせ先 市民課

TEL 0867(42)1112

防護柵の設置経費を補助 野猪等防護柵設置補助金

農作物の被害を防ぐため、電気柵・トタン・網などを設置する方に、経費の一部を補助します。設置する前に要望書を提出してください。

対象者 田および畑に防護柵を設置する方で、次の条件に合う方・受益戸数が原則2戸以上・総延長が200m以上

申し込み先 林業振興課
TEL 0867(42)1039

特別給付金請求は3月31日まで 戦没者の遺族の方へ

一定の要件を満たす、戦没者の父母、祖父母、戦没者の妻に特別給付金が支給されます。請求締切は平成18年3月31日です。対象者は至急連絡ください。

一定の要件 ①平成15年4月1日現在、次の年金給付の受給権を有する方・公務扶助料、特例扶助料(恩給法)・遺族年金、遺族給与金(戦傷病者戦没者遺族

等援護法)・殉職年金等(旧令共済組合特別措置法)

②戦没者父母・祖父母の方は、戦没者死亡後から平成15年3月31日までの間に、氏を同じくする子または孫(自然血族)を有するに至らなかったこと

問い合わせ先 福祉課

TEL 0867(52)1112

就職、社会保険を取得したら 国民健康保険喪失の手続きを

今年度で卒業する学生の方が

所得税・住民税の 申告期限は、 確定申告 3月15日(水) お忘れのないよう 申告会場へお越しください。

市民税課 TEL 0867-42-1114

家族交流会へご参加を

後縦靭帯骨化症患者の方

県北難病友の会では後縦靭帯骨化症および類似疾患の方を対象の交流会を開催します。悩みや不安などを語り合いませんか。

日時 3月19日(日) 午後1時30分

場所 津山市総合福祉会館
申込締切 3月13日(月)

申し込み先 真庭保健所保健対策班
TEL 0867(44)3111

相談日変更

交通事故相談所津山支所

岡山県交通事故相談所津山支所の相談日が、平成18年4月か

差し替えます

乳幼児医療費受給資格者証

ら変更します。
相談日 毎週火曜日・木曜日
午後1時〜4時
相談場所 美作県民局(津山市山下53)
※真庭市での巡回相談は平成18年3月で終了します。

問い合わせ先 同相談所

TEL 0868(23)2311

相談日以外

TEL 086(224)2111

乳幼児医療の対象年令引き上げ(平成17年10月実施)に伴い、有効期間が小学校就学前までの乳幼児医療費受給資格者証を、有効期間が小学校卒業までの資格者証と差し替えます。新しい受給資格者証を3月末までに郵送しますので、4月1日以降は新しいものをお使いください。

問い合わせ先 市民課

TEL 0867(42)1112

ESPACE INFORMATION

久世エスパス
〒719-3214
真庭市鍋屋17-1
TEL0867-42-7000
価格はすべて税込です

●花から花へ～角南有紀ソプラノ・リサイタル
平成18年3月11日(土)開演14:00 エスパスホール
全席自由 入場料1,000円
出演:角南有紀(S)、吉原未穂(P)
曲目:さくらさくら、早春賦、花のまち、花ほか

●シネエスパ「男たちの大和/YAMATO」
2回上映(①10:30/②14:00) 完全入替制
平成18年3月12日(日) 全席自由 エスパスホール
一般前売1,300円 高校生以下前売800円 当日200円増

●エスパス合唱団第4回定期演奏会
平成18年3月21日(火・祝) 開演15:00
エスパスホール 全席自由 入場料500円
出演:エスパス合唱団、鈴木英子(指揮)ほか
曲目:なごり雪、おぼろ月夜、翼をくださいほか

●ミュージカル・ビーボ「森の木陰に吹く風は」
平成18年4月1日(土)開演18:30 エスパスホール
全席自由 入場料500円

●忍たま乱太郎・キャラクターショー
&歌のお姉さんスペシャルステージショー(2回公演)
平成18年4月23日(日)開演①11:00/②14:30
エスパスホール 全席自由 入場料1,000円
入場券発売:平成18年3月5日(日)10時

●スタインウェイピアノ・リレーコンサート
平成18年4月30日(日)開演10:00 エスパスホール
全席自由 入場無料
参加費500円 1人(1組)5分以内 連弾も可能
募集締切:平成18年4月13日(木)必着

●ESPACE映画祭2006～映画、夢の果てまでも…
平成18年5月5,6,7,13,14日 エスパスホール
全席自由 完全入替制 5本通し券:2,700円(★)
各1本券:一般1,300円/高校生以下800円
5日(金・祝)10:30 「ドラえもん」(アニメは1本券)
5日(金・祝)14:00★「THE有頂天ホテル」
6日(土) 14:00★「蟬しぐれ」
7日(日) 14:00★「単騎、千里を走る。」
13日(土) 19:00★「県庁の星」
14日(日) 10:30 「ワンピース」(アニメは1本券)
14日(日) 14:00★「私の頭の中の消しゴム」
入場券発売:平成18年3月5日(日)10時

●有森博ピアノ・リサイタル～ロシアピアノニズムの系譜
平成18年5月27日(土)開演19:00 エスパスホール
全席自由 一般2,500円/高校生以下1,500円
入場券発売:平成18年3月5日(日)10時

中小企業を応援します オンラインワン企業育成支援事業

真庭市では、市内の中小企業が新しく研究開発を行うことにより、独自の優れた技術を持つ企業を育成するため「真庭市オンラインワン企業育成支援事業」の補助金制度を設けました。中小企業者が、新しく地域産業の創造のための事業を行う場合に、必要とする経費の一部を補助します。申し込みは3月20日(月)までに商工振興課(TEL0867(42)5022)まで申し込んでください。

気軽ににご相談ください 特設人権相談所

人権相談員が無料で相談に応じます。秘密は固く守られます。
・勝山保健福祉センター 3月17日(金) 午前9時～正午
・久世保健福祉会館 3月22日(水) 午前9時～正午
・落合公民館 3月16日(木) 午前10時～午後3時
・北房支局 3月10日(金) 午前10時～午後3時
・湯原保健福祉センター 16日(木) 午前10時～午後3時
真庭人権擁護委員協議会

筋ジストロフィー患者の方へ 療育相談検診会を開催

筋ジストロフィーやその疑いのある方、家族の皆さんを対象に療育相談検診会を開催します。
日時 3月18日(土) 午前10時～午後2時
場所 南岡山医療センター(早島町早島4066 TEL086(482)1121)
※希望者は健康保険証、身体障害者手帳を持参ください。
申し込み先 (社)日本筋ジストロフィー協会岡山県支部
TEL0866(22)0120

募集しています 予備自衛官補

自衛隊では、予備自衛官補(陸)を募集します。予備自衛官補は、普段は社会人としてそれぞれの職業に従事しながら、必要とされる練度を維持するための訓練を受けます。処遇は非常勤の特別国家公務員です。
応募資格 自衛官未経験者で、一般公募は18歳以上34歳未満
技能公募は18歳以上で、保有する技能に応じて53～55歳未満
満 受付締切 4月7日(金)

問合わせ先 自衛隊岡山地方 連絡部津山出張所 TEL0868(22)5637

会員募集中 参画まにわ

主に女性セミナー真庭支部「参画まにわ」では、平成18年度の会員を募集しています。男女共同参画社会を目指して一緒に学習や研修・情報交換をしましょう。申込締切は3月20日(月)で、申込用紙は市役所窓口においてあります。
問合わせ先 市民課
TEL0867(42)1112

えっ! 介護保険制度

平成18年
4月から

が変わるんですか

第2回

平成18年4月からサービスを含めた介護保険制度が見直され、介護予防を重視した取り組みへと変わります。今月号では先月号の改正背景に続き、制度改正の中核機関として創設される「地域包括支援センター」について、お知らせします。

地域包括支援センターというのは？

地域包括支援センターが役割を担う部分

介護予防サービス
要支援・要介護状態になることの
予防と改善の方向へ

平成18年4月から

介護認定を受けている	要支援2	新・予防給付
	要支援1	
介護認定からはずれている	要支援・要介護になる人 要介護のおそれる人	地域支援事業

■平成18年4月から介護度が軽度（介護認定の要支援1、要支援2）の人と、介護が必要になりそうな人に介護予防サービスを提供します。

●センターということは、建物
ができるということですか

組みのことです。

施設ではなく組織形態

いいえ、そうではありません。

前回お知らせしましたが、今度の制度改正では、「介護が必要となることを予防・改善する」ということが大きな課題です。その介護予防に関するサービスなど全般を、総合的に支援する仕

●なぜ、必要に？

中立・公正な拠点づくり

これまで多くの市町村では、介護が必要になった高齢者や家族の相談窓口、介護計画を立てるケアマネジャーの支援、その連絡調整という公共的性格が強い役割を、在宅介護支援センタ

地域包括支援センターおもな4つの機能(表1)

①介護予防マネジメント

(保健師などを中心に対応)

新予防給付と地域支援事業を一体的に実施し、要介護予防と要介護状態の悪化予防を図ります

②総合相談・支援

(社会福祉士を中心に対応)

制度の垣根にとらわれない各種相談を受け付けます

③権利擁護事業

(社会福祉士を中心に対応)

高齢者に対する虐待防止の早期発見、権利擁護の事業を行います

④包括的・継続的マネジメント

(主任ケアマネジャーを中心に対応)

高齢者ひとり一人の状況に応じた長期のケアマネジメントを支援するため、現場のケアマネジャーの後方からの支援を行います。

●地域の社会資源を活用とは？

住み慣れた地域で暮らしたい

介護予防サービスを受ける軽度の介護認定の人、また介護認定になりそうな人の多くは、自宅で暮らしています。また、市

日常のつながりの中で

が、市内の一般高齢者や要介護認定者にアンケートをとった結果、「今後とも自宅でも暮らしたい」という人は5割を超えていました。介護予防サービスを提供していく上でも、住み慣れた地域で取り組んでいただくということは、非常に大切です。

地域で暮らし続けるためには、まず要介護状態になる前から、日常的な健康管理や予防対策が、そして介護が必要になったときには、適切な介護サービスが提供され、状態の悪化をできるだけ防ぐことが必要です。このためには、介護・医療サービスからボランティアや近隣住



■真庭市では、日常生活圏域を上図のように設定しました



持続可能なサービスを 提供するために

高齢者支援課 TEL0867-52-1113

民、ご近所さん同士の助け合い
まで、地域のあらゆる形を活用
した仕組みが必要です。これが
社会資源です。同時に介護予防
のためには、ひとり一人の身体
状況に合った取り組みが必要で
す。主治医やケアマネジャーを
はじめ、さまざまな職種のスタ
ッフが身体状況を情報として共
有することで、初めて一貫した
サービス提供が可能になりま
す。地域包括支援センターはこ
うした介護予防サービスを支え
る人たちの総合窓口の役割も担
います。

●連携が必要と言うことです

社会福祉士の設置

そうです。そのため、地域包
括支援センターでは保健師、主
任ケアマネジャー（地域のケア
マネジャーの後方支援を行う）
に加えて、福祉全般にわたる知

日常生活圏域と地域支援センター
真庭市地域包括介護支援セン
ターは、市役所落合庁舎の高齢
者支援課の中に置かれる予定で
すが、介護予防の取り組み（介
護予防サービス提供）は、皆さ
んがお住まいのそれぞれの地域
が主体になります。このため、

●広い真庭市で、地域包括支援 センターはひとつですか

識を持つ社会福祉士、この3者
がチームを組みます。それぞ
れの専門知識を生かした取り組
みを進め、適切な介護予防サー
ビスを受けるための総合窓口とし
て、一括して相談が受けられる
ようにします。
また、近年、認知症高齢者な
どを狙った悪質商法で被害を受
ける人もいるため、権利擁護事
業も社会福祉士を中心に取り組
みます（表1参照）。

北房
地域支援センター
(北房支局健康福祉課)

落合
地域支援センター
(うぐいすプラザ)

久世
地域支援センター
(久世支局健康福祉課)

勝山
地域支援センター
(勝山支局健康福祉課)

美甘・湯原
地域支援サブセンター
(美甘支局市民福祉課)

美甘・湯原
地域支援センター
(湯原支局市民福祉課)

蒜山
地域支援サブセンター
(中和支局市民福祉課)
(川上支局市民福祉課)

蒜山
地域支援センター
(八束振興局市民福祉課)

真庭市地域包括支援センター(落合庁舎)
保健師・主任ケアマネジャー・社会福祉士・相談員・事務職

「6つの日常生活圏域」というも
のを設定しました。これに基づ
き、地域支援センターを設置し
ます。真庭市では、各支局の健
康福祉課、市民福祉課がこれに
該当します。介護予防サービス
を受ける皆さんは、これまで通
り、各支局担当課窓口にご相談
ください。必要な状況に応じて
地域包括支援センターと地域支
援センターが連携し、皆さんの
ご相談内容に応じますので安心
してください。

●介護保険は制度見直しと同時 に保険料も変わるのでは？

真庭市としての統一が必要で
す。そのための計画づくりも行
ってききました。次回は改訂保
料についてお知らせします。



真庭市地域包括支援センター嘱託職員

市では、介護保険の新予
防給付に関するケアマネジ
メント業務を行う嘱託職員を
募集しています。詳しくは高
齢者支援課までお問い合わせ
ください。

- 応募資格 介護支援専門員（ケアマネジャー）資格を有する人
※普通自動車免許取得および取得見込みのある人
- 雇用期間 平成18年4月1日～平成19年3月31日
※勤務成績良好な場合は更新可能
- 募集期間 平成18年3月10日（金）まで
- 必要書類 履歴書・介護支援専門員登録証明書の写し
- 募集人員 5名程度



笑顔の中和中学校生徒15人

中和中学校校歌

作詞 中島伊約夫
作曲 千島賢輔

一、平和の清流音高く春の
あわ雪うつろいで
理想の鐘は鳴りそめぬ
三春かおるわが校舎

二、呼べばこたえる連山の
緑の風に抱かれつ
希望の胸はふくらみて
文化をきざむ響きあり

三、ああこの清き故里の
三年を飾る初紅葉
若き血汐はもえたちぬ
春秋映ゆる我が校舎



さようなら中和中学校

中和中学校は平成18年3月31日で閉校し、蒜山中学校と統合します。
昭和22年に開校した中和中学校は59年間、約1200人の卒業生を送り出してきまし
た。地域に支えられ数々の歴史を刻んできた中和中学校。生徒数の減少で、その歴史に
幕を下ろします。
中学校ではこの1年、地域と地域の皆さんへ感謝を込めて懸命に活動してきました。
地域を愛するこの思いは、閉校後もこの地域に残り続けます。

思い出に残る 1年を目指して

中和中学校の記憶を多くの人に残したい。「思い出に残
る1年を目指して」を全校生徒15人と教職員の共通の思い
として、学校生活の様子をホームページ中の「日々の出来
事」に記録しています。軌跡の一部をご覧ください。

4月11日、地域に感謝を込め
て、放課後に学校周辺を清掃。
生徒会の提案による清掃活動
は、雪が降る時期まで月2回の
ペースで行われました。



8月1〜2日、全校で白石島
へ体験学習。シーカヤックで無
人島へ上陸し、泳いだり貝を拾
ったりして、海のある地域の暮
らしを体全体で学びました。



10月25日、初めて見る馬術競
技に驚きながら、障害競技や馬
場馬術競技を観戦。ボランティ
アで厩舎裏の広場を掃除、砂や
糞をきれいに片付けました。

平成18年3月15日(水)

卒業式 9:00〜 9人の卒業生

閉校記念式 11:00〜

中和中学校ホームページ

<http://www.1harenet.ne.jp/~chukajhs/>

※3月31日まで開設

思いをこめて

最後の卒業生として誇りを持つ



中和中学校3年生
由井洋和さん

閉校に向けて思い出をつくらうという目標に、みんなの気持ちが一になって活動しました。ソーラン節、劇そしてテレビの収録など、一つ一つが思い出です。中和中学校最後の卒業生としての誇りを持ち、中学校の歴史や出来事をこの地域に受け継いでいきます。

新しい環境でも頑張ります



中和中学校2年生
美甘耕平さん

4月からは蒜山中学校へバスで通います。修学旅行の事前学習で、何度か蒜山中へ行って合同学習をしました。蒜山中学校は人数が多いです。中和中学校のみんなは、兄弟のように仲良かったので少し心配ですが、早く新しい仲間にも溶け込めるように頑張ります。

子どもたちの思い出づくりを応援



中和中学校PTA会長
石原博文さん

PTAとしても、この一年は特別なものになりました。子どもたちが喜び、楽しんで思い出づくりができるように応援してきました。もちろん保護者だけでは、何もできません。先生、地域の皆さんの協力には本当に感謝しています。「まだ、続けたい」これが今の気持ちです。

木造校舎が温かい心を育む



中和地区主任児童委員
津村幸男さん

児童委員として子どもたちの成長を見てきました。今も昔も変わらない木造校舎、わたしも自分の子もこの学校を卒業しました。この校舎で子どもたちは幸せに過ごし、中和地域から温かい心を持った人を育ててきたように思います。中和中学校は、地域の誇りです。

中和中学校赴任を一生忘れません



中和中学校
井上 豪 校長

「元気に自然にたくましく」が今年度の学校教育目標。まさにその通りというぐらい子どもたちは成長しました。中和は家庭や地域で子どもを育てるという基盤があり、支援も大きく、職員は教育に専念できました。一生忘れることはありません。本当にありがとうございました。



四、はるばる涯なき冬空を
望み立てる若人の
炎とたぎる研鑽の
あつき涙は溢れたり

五、自然の恵みいや深き
中和の教身に付けて
いざ競わんか黒汐と
世界に送る春の風



11月7日、生徒会提案でNHK教育テレビの「金曜かきこみTV」にメールを送り、それがきっかけで番組に出演することに。テレビ収録を体験。



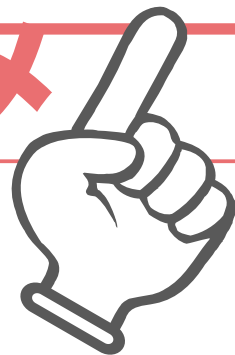
11月19日、最後の小中合同「学校祭」を開催。中和中の歴史の発表、全員での劇、克己・ソーランなどを披露しました。会場は大きな拍手で包まれました。

1月15日、ホームページづくりを競う岡山県スクールインターネット博の最終審査で、中和の取り組みを発表。ベストプレゼンテーション賞を獲得。





健康のススめ



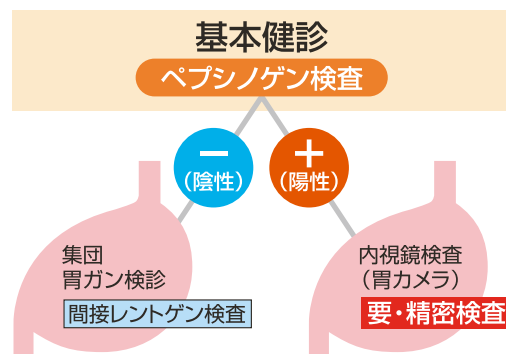
ペプシノゲン・ピロリ菌・胃ガン

お話

米田内科医院
米田 昌道 院長

胃ガン検診受診者の減少
真庭市医師会（旧真庭郡医師会）は、昭和41年から検診車を使用し、胃ガンの集団検診を進めてきました。しかし、受診者数は徐々に減り、平成元年には年間約1万人（旧真庭郡値）以上いた受診者数が、平成14年には3,991人までに落ち込みました。減った理由はさまざま考えられますが、医療機関の直接検診で胃ガン発見率が向上していることなどから、医師会内でも集団検診の改革を求める声は強くなっていました。

しかし、真庭地域では精密検査機器が入っていない医療圏があり、また、真庭の高齢化状況
そこで、真庭地域の状況に合い、簡便で胃ガン発見率を上げる方法がないかと検討した結果、ペプシノゲン検査法を取り入れることになりました。



基本健診で胃の健康度をみていきましよう

を考えると、発見精度向上のみの判断で胃ガン集団検診の取りやめはできない、ということになりました。

ペプシノゲンで振り分け

このペプシノゲンで何が分かるのかというと萎縮性胃炎が分かります。萎縮性胃炎の方は、高い確率で胃ガンが発見されます。このため、基本健診でペプシノゲン測定を行い、その結果が陰性（萎縮性胃炎なし）の方は、今まで通り検診車で集団検診を受けていただきます。結果が陽性（ただし、70歳以上は強陽性、萎縮性胃炎あり）となってしまう方は、原則、内視鏡（胃カメラ）検査を受けていただくことにしました。

ピロリ菌検査

平成17年度からは、ペプシノゲン、間接レントゲンに加えて、ピロリ菌検査も基本健診で行っています。今年度は、川崎医科大学の協力でピロリ菌検査は無料実施されました。18年度以降は、基本健診に500円の追加で受診することができるよう予定です。ピロリ菌は胃や十二指腸潰瘍のみならず、胃ガンの発生にも深く関与していることが分かっています。

基本健診で、ペプシノゲン・ピロリ菌の検査も受けて胃の健康度をみていきましょう。

平成16年度の結果から

ペプシノゲン検査

ペプシノゲンと間接レントゲンはどちらで

しかし、平成16年度に陽性と判定を受け要精密検査となった方、約900名のうち約300名が内視鏡検査を受けています。また、陰性と判定されたこととで安心してしまふのか、ペプシノゲン検査だけで、間接レントゲン検査を受ける方が減ってしまいました。



▲醍醐桜(岡山県指定天然記念物)

真庭市の
文化財

4

温故知新

「醍醐桜と市内の桜」

四方に枝を広げた雄大な姿に年間10万人近い観光客が訪れている醍醐桜。真庭市別所の山頂にある吉念寺という集落の南西で、毎年4月初旬から薄紅色の愛らしい花を咲かせています。

桜の品種は「アズマヒガン」で、昭和47年12月に岡山県天然記念物に指定されました。伝説によれば、元弘2(1332)年、後醍醐天皇が隠岐に遷幸された際に、この地に立ち寄りこの桜を賞されたといわれており、この伝説からこの樹名が付いたとも言われています。指定当時の目通り周囲は7・10メートルの太さでしたが、平成2年には大修繕が行われ、下枝が張り出し見た目の安定度も増した現在では、目通り周囲は7・78メートルに成長しました。

しかし、修繕から既に15年。再び



黒岩の山桜(県指定天然記念物)

腐朽が進行している箇所が多く見られるようになりました。長期的にみれば巨木・老木であることから腐朽や大枝の折損は回避できませんが、将来大枝となる胴吹芽が多く発生しています。このため、市教育委員会では50年・100年後の樹形を考慮した活力ある枝を育て計画的に維持したいと考え、平成18年度には腐朽箇所の大修繕を計画しています。

醍醐桜に代表される桜の巨木や古木。市内には、「黒岩の山桜(蒜山東茅部・県指定)」をはじめ「上水田の江戸彼岸」、「岩井畝の大桜」、「桜本寺の大桜」、「神代の四季桜」、「上福田の岩桜」などがあります。

長い年月を経るとともに伝説や故事に彩られた桜、春の訪れとともに市内で咲き誇ります。

(真庭市教育委員会文化財課)

306年の伝統、大いに人集う



ぶり小屋と、通りいっぱいの人でにぎわう皆部商店街。上写真はぶり市許可状伝達式

どろっと まにわ 真庭 ま ち の 話 題

2月5日、306年の伝統を持つ「北房ぶり市」が皆部商店街（下皆部）で開催され、県内外から約2万5千人が訪れました。古式にのっとり「ぶり市許可状伝達式」から市は始まり、福もち投げや富くじ抽選、太鼓演奏などの多彩な催しで、商店街はにぎわいました。商店街の一角に設けられた「ぶり小屋」の前には、新鮮なブリを、豪快に包丁一本でさばく様子を一目見ようと、人だかりができていました。

2月14日、「勝山のお雛まつり」に向けて講習会が勝山文化センターで開催され、地域の女性、約80人が参加しました。約160軒の家々が個々で趣向を凝らした飾り付けを行っている勝山のお雛まつり。講習会は、お雛さまを手作りすることで地域の盛り上がりをつくろうと、毎年、勝山町商工会女性部主催で行われています。今回、各家々を飾るものとして取り組んだのは「ちりめんのわらべ雛」。参加者は、3時間ほどをかけて男びな、女びなをはさみやのりを使い製作しました。

雛まつりに向けて



心のこもった手作り雛。勝山のお雛まつりは3月3日から



紅白の梅から漂う香りが、春を感じさせた会場

2月10日～13日まで第14回落合梅花展が開かれました。会場の落合公民館には、百年を超える古木も含め、落合老人大学生など地域の皆さんが丹精し育ててきた梅の樹、約270鉢が集い、ほころんだ紅白の花から漂う甘酸い香りに包まれた会場には、3日間で約1,500人が訪れ、見事な枝ぶりを一鉢一鉢と観賞していました。このほか期間中の会場では、お茶席や特産物販売所も設けられており、来場者には会場近くの箸立天満宮で祈願された梅の枝が、主催の実行委員会から贈呈されました。

紅白の香りに包まれて

2/4 雪降って親子ふれあう

中和保健センターあじさいで雪遊びを開催。中和地区の小学生までの親子が集まり、かまくら作り、ソリ遊び、宝探しなどが行われました。ふわふわの新雪の中で、親子のふれあいが深まりました。



2/5 ようこそ真庭の農産品へ

「まにわ農業体験バスツアー」に県南から36名が参加。クリエイト菅谷(美甘)で、市内農業者の指導を受け、そば打ちや巻柿など、農産品本来の味を生かした加工品づくり挑戦しました。



2/11 この足跡は、イノシシ?

蒜山高原キャンプ場周辺で「蒜山の自然を学ぶ会」が開かれ、地元小学生有志15名が参加。クロスカントリースキーを履いて、自然観察を行いました。冬季の動物や植物の活動を学んでいました。



2/12 恋人たちの夜を演出

ろうそくの明かりが露天風呂を包む「ファンタスティックバレンタインin砂湯」が湯原温泉郷で14日まで開催。幻想的な明かりに、訪れたカップルもうっとり。良い思い出ができたことでしょう。



2/19 キンボールで市民の和

真庭市体育指導委員会が真庭市親睦キンボール大会を開催。約300名が参加し、カナダ生まれのニュースポーツを楽しみました。直径122cmのボールの魅力、幅広く普及できるいいですね。



地区内の注意か所はどろ?



目木地区の安全注意地点は

2月5日、目木勤労者研修センターで、まちづくりイベント「みんなで守ろう!めき地域」が開かれました。地域の危機管理を考えるこの催しには、目木地区内から約50人が参加。真庭市消防署・真庭警察署職員から、阪神淡路大震災時の事例で地域防災、真庭市内の犯罪発生状況などから防犯のあり方を学びました。炊き出し体験も兼ねた、だんご汁で昼食を取ったあとは、参加者全員で地図上に防災・防犯両面からみた地区内の危険か所を表示。お互いを感じる危険情報を共有していました。



津黒高原GSL大会の様子。急斜面もなんのその!



35回目となるバサーレースには約60名が参加

冬季オリンピックに負けじと

冬季スポーツ真っ最中。1月26日には、アルペン競技で岡山県にスキーを導入した友金藤吉さんにちなんだ友金杯、2月4日には津黒高原ジャイアントスラローム大会、同5日にはひるぜんベアバレーで小中生対象のOHK杯、同12日には、三木ヶ原スノーパークで35回を迎える蒜山バサーレース、同19日は、ひるぜんベアバレーで第1回真庭スキー大会が行われました。冬季オリンピックにも負けず、多種目が開催された市内です。

杜市の彩り

季節を感じて

冬の塩滝（関）です。滝の周辺は凍っていたので、一人で来たことが少し心配になりました。でもここまで来たらと滝のすぐ下まで行き、しぶきをよけながら撮影しました。

この塩滝を撮影したのは、今年「旭川源流の碑」がこの滝のある塩滝公園に建立されるからです。別所の山から切り出した栗の木から地域の皆さんが協力し碑を作ります。そのあと一度、旭川下流に運び、多くの人々の手をつないで源流地点に運ばれてきます。

落合地区で源流の碑の建立に最もふさわしい場所、これが塩滝周辺の豊かな自然だったわけです。秋には碑が建つ予定です。ぜひ、四季を通して塩滝をご覧ください。—— 典也さん談



冬の塩滝 平成18年2月5日 撮影
撮影者 桐山典也さん（吉）

バイオマス特集。難しかったかなと反省しています。ガソリン、プラスチック、石油はとても便利で、無くなるとたちまち困ります。でも、チリも積もれば山となる―使い続けた結果、無くなるだけでなく地球の表面が熱くなってきたことに、世界中の人が気付き始めました。これはやばいぞ。逃げるところが無い、気付いた世界中が石油の代わりに使えるものはないかと探します。誰かが言いました。植物から何かできないか。 ④

編集後記 まにわがスキツ!!

「つい近年まで日本人は『自然に生かされている』という思いを持っていました」バイオマスマシンボでの渋澤さんの言葉。真庭市は自然が豊かですが、その自然と共生しているかというところではないように思います。同日午前に蒜山の自然を学ぶ会の取材に同行しました。クロスカントリースキーを履いてイノシシの足跡、ホオノキの新芽を包むヤニ、実際に見て触って体験できる会。子どもたちの笑顔。大切な会だと感じました。 ⑤